

第33回

人吉市統計年鑑

令和元年版



熊本県人吉市

は じ め に

このたび、第33回「人吉市統計年鑑」令和元年版を発行いたしました。

本書は、まちづくりに取り組む本市の自然・人口・経済・教育・文化などの各分野にわたる統計資料を収録し、市勢の現況ならびに推移発展のあとを明らかにするものです。

近年、情報通信技術の急速な進展や少子高齢化、グローバル化など社会情勢の変化に伴い、統計情報の需要はますます高まっており、本書を各方面の計画立案への基礎資料のほか、市民生活の指標として広く活用していただければ幸いに存じます。

本書の編集にあたりましては、資料の不備、様式の改善など改めるべき点多々あることと存じますが、今後皆様方のご意見、ご指導をいただきながら充実、改善を図ってまいります。

おわりに、本書の刊行にあたりまして、貴重な資料をご提供いただきました各関係機関ならびに関係者の方々に対しまして心からお礼申し上げます。

令和 2年 3月

熊本県人吉市長 **松岡 隼人**

人吉市民憲章

昭和57年9月28日制定

わたしたちは清流球磨川と緑のまち自然公園都市を
めざすひとよしの市民です。

1. 自然と人情をだいじにし
きれいなまちをつくります。
1. きまりを守り助けあい
明るいまちをつくります。
1. こどもに夢、老人にいきがいの
あたたかいまちをつくります。
1. 伝統と文化をはぐくみ
心やすらぐまちをつくります。
1. 健康でよく働き
豊かなまちをつくります。

人吉市の木 か し

人吉市の花 梅 の 花

人吉市の鳥 うぐいす・やませみ



本章は、人吉市のかしら文字「ヒ」を飛鳥のイメージで図案化したもので、市民の和を中心に自然の美しさ、産業、文化の飛躍的な向上を象徴させ、市の躍進の姿を表現したものです。

「人吉」の起源

まず、球磨という文字が現れだすのは、平安時代中期。南九州の有力な部族の名であった熊襲が熊縣に、そしていつの間にか、地名の球磨になったといわれています。人吉の地名が現れたのは、同じくこのころで、醍醐天皇(898年～921年)の時代の「和名抄」に、球磨郡に球玖・久米・人吉・東村・西村・千脱の六郷があると出ています。人吉の語源は、人吉が、当時日向・薩摩・佐敷を結ぶ交通の要衝であり、「舎」つまり、宿があり、これを“ひとよし”と呼んでいたため、人吉となったとする説があります。

(資料：1988市勢要覧)

利 用 さ れ る 方 へ

- 1 この第33回統計年鑑「令和元年版」は、原則として第30回統計年鑑以降の数値を追加収録していますので、前回までの統計年鑑と併せてご利用ください。
- 2 統計表はほとんど人吉市を区域とするものですが、例外的に資料提供機関の所轄地域にかかわるもの、およびまぎらわしいものは脚注に明記しました。
- 3 統計表の一般的説明および注釈は、統計表の脚注に掲げました。
- 4 数値の単位は、統計表の右上に明記しました。
- 5 統計表の中で「年次」とあるのは年間（1月～12月の歴年）、「年度」とあるのは年度間（4月～翌年3月の会計年度）を示し、調査時点については、脚注に明記しました。
- 6 統計表の記号の用法は次のとおりです。
 - 「0」・「0.0」・・・四捨五入した結果掲載単位に満たないもの
 - 「―」・・・・・・・・・・該当数値のないもの
 - 「…」・・・・・・・・・・該当数値が不詳・不明または公表のないもの
 - 「△」・・・・・・・・・・減 少
 - 「X」・・・・・・・・・・該当数値はあるが公表をさしひかえたもの
- 7 統計表の中の数値は、四捨五入などのため、内訳の合計が総数と一致しない場合があります。
- 8 資料の出所については、統計表の左上に明記しました。
- 9 本書に収録された数値で、これまでの統計年鑑に収録されている数字と相違するものは、今回の編さんの際、訂正を加えたものあるいは確定数に改めたものです。
- 10 この統計年鑑に収録した統計資料等についての疑義または詳細な資料が必要な場合は、各統計表の出所機関または本市企画課企画政策係に照会してください。